



沖縄 首里城公園

琉球王国の栄華を物語る世界遺産

料金のご案内

■**入場料金** ※車イスでもご覧いただけます。

	大人	中人 (高校生)	小人 (小・中学生)	6歳未満
一般	820円	620円	310円	無料
団体	660円	490円	250円	
年間パスポート	1,640円	1,240円	620円	

- 団体は20名様以上
- モノレールのフリー乗車券(一日券、二日券)の提示で団体料金で入場できます(券売所窓口にて提示)。
- ※フリー乗車券の有効期限内において、1枚につきお一人様1回限りの割引となります。

開場時間のご案内

■開場時間

- 4月～ 6月(8:30～19:00)入場券販売締切18:30
- 7月～ 9月(8:30～20:00)入場券販売締切19:30
- 10月～ 11月(8:30～19:00)入場券販売締切18:30
- 12月～ 3月(8:30～18:00)入場券販売締切17:30

■休場日

維持管理上、毎年7月の第一水曜日とその翌日を休場日とさせていただきます。

交通のご案内

1.路線バス

- 市内線(14)17番・市外線(46)番に乗り、「首里城公園入口」のバス停にて下車、徒歩約5分で守礼門に到着。
- 首里城下町線の(7)9番に乗り、「首里城前」にて下車。徒歩1分で守礼門前に到着。
- 市内線の(9)18番・市外線(25)27(28)番に乗り、「山川バス停」にて下車、徒歩15分で守礼門に到着。

2.観光バス・乗用車・タクシー

バス・乗用車・タクシーは、首里杜館(首里城公園レストセンター)地下駐車場にゆとりがある場合、係員の誘導により駐車することができます。

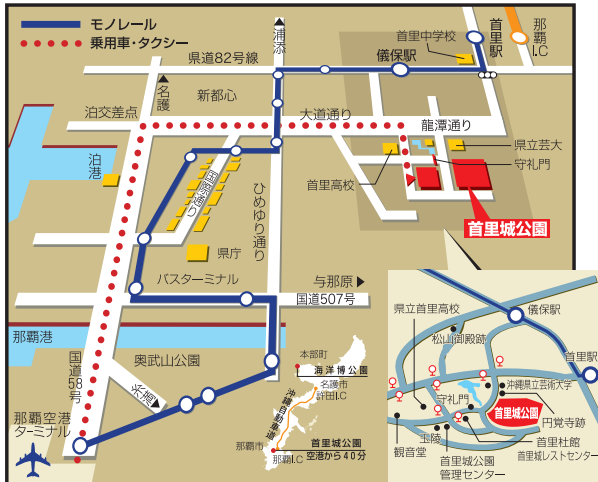
■首里杜館駐車場ご利用料金 ■首里杜館駐車場開館時間

- 大型バス 960円 (回数券11回分9,600円)
- 小型車 320円 (回数券11回分3,200円)
- 4月～ 6月(8:00～20:00)
- 7月～ 9月(8:00～21:00)
- 10月～ 11月(8:00～20:00)
- 12月～ 3月(8:00～19:00)

※尚、駐車場の予約は修学旅行団体に限りです。(バスのみ)

3.モノレール(ゆいレール)

首里駅または儀保駅にて下車。徒歩約15分で守礼門に到着。



お問い合わせ
一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部

〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町1丁目2番地
TEL.098-886-2020(代) FAX.098-886-2022
<http://oki-park.jp/shurijo/>

(19.02.225,000部)



首里城公園

琉球王国の政治・外交・文化の 中心地として威容を誇った首里城

荘厳な城門をいくつも通ると現れる正殿は、琉球王国最大の建造物でした。中国と日本の築城文化を融合した独特の建築様式や石組み技術には高い文化的・歴史的価値があるとされ、世界文化遺産に登録されました。他にも園内には、守礼門や園比屋武御嶽石門、円覚寺跡などの文化財が点在しています。



首里駅

モノレール

←至那覇空港

鳥堀

82

29

周辺文化財 ①
円覚寺・総門



周辺文化財 ②
弁財天堂



周辺文化財 ③
世界遺産 園比屋武御嶽石門



周辺文化財 ④
龍潭



池端

周辺文化財 ⑤
世界遺産 園玉 玉陵



首里城前

50

正殿

広福門

久慶門

歓会門

木曳門

総合案内所

首里杜館

周辺文化財 ⑥
守礼門



首里城公園管理センター

首里城の施設

□ 無料区域 □ 有料区域



首里城公園レストセンター 首里杜館



レストラン首里杜(すいむい)
 沖縄そばやタコライスなど
 沖縄料理をお楽しみいただけます。
 ☎ 10:00～17:00(ラストオーダー16:30)

カフェ龍樋(りゅうひ)

コーヒー、アイスクリームなど軽食を
 気軽にお楽しみいただけます。
 ☎ 4~11月 9:00～19:00、12~3月 10:00～18:30



総合案内所やレストラン、カフェ、ショップなど、首里城見学の拠点となる施設です。ぜひ見学前と見学後にお立ち寄りください。



ショップ紅型
 首里城のオリジナルグッズや
 お土産を販売しています。
 ☎ 8:00～18:00

ショップ紅型B1

沖縄限定のお菓子やドリンクなどを
 販売しています。
 ☎ 8:00～18:00



せい だん 正殿への道



守礼門 (しゅれいもん)

尚清王時代(1527～1555)に創建。扁額の「守禮之邦」とは、「琉球は礼節を重んずる国である」という意味です。



世界遺産 園比屋武御嶽石門 (そのひやんたけいしもん)

国王が出御の時、道中の安泰をこの石門前で祈願しました。



歓会門 (かんかいもん)

首里城の正門。中国皇帝の使者「冊封使(さっぽうし)」など、訪れる人への歓迎の意を込めて名前がつけられました。

龍樋 (りゅうひ)

瑞泉門の手前にあり、龍の口から湧水が湧き出していることからその名が付けられました。王宮の大切な飲料水でした。



瑞泉門 (ずいせんもん)

瑞泉とは、「立派なめでたい泉」という意味です。門前のある湧水「龍樋(りゅうひ)」にちなんで名付けられました。



漏刻門 (ろうこくもん)

櫓(やぐら)の中の水時計で時刻を計ったことで名付けられた門。別名「かご居(い)せ御門(うじょう)」。身分の高い役人も国王に敬意を表してこで籠(かご)を降りました。



万国津梁の鐘(復元)

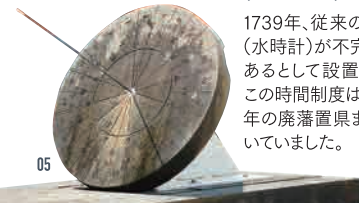
(ばんこくしんりょうのかね)

1458年に正殿に掛けられていた鐘。「琉球国は南海の美しい国であり、朝鮮、中国、日本との間にあって、船を万国の架け橋とし、貿易によって栄える国である。」という主旨の銘文が刻まれています。※原資料は沖縄県立博物館・美術館にて所蔵。

日影台

(にちえいだい)

1739年、従来の漏刻(水時計)が不完全であるとして設置され、この時間制度は1879年の廃藩置県まで続いていました。



券売所

広福門(こうふくもん)

東側には戸籍の管理をする「大与座(おおくみざ)」、西側には寺や神社を管理する「寺社座(じしゃざ)」がありました。



系図座・用物座 (けいずざ・ようもつざ)

「系図座」は、士族の家系図を管理していた役所。「用物座」は、城内で使用する物品、資料などを管理していた役所でした。



首里森御嶽 (すいむいりたき)

城内にある礼拝所のひとつで、琉球最古の歌謡集「おもろさうし(おもろそうし)」に数多く詠まれています。神話には『神が作られた聖地である』と記されています。

三線体験会

琉球の伝統楽器「三線」を気軽に体験できます。

🕒 毎週土・日・祝日
(11:40～、14:40～(各30分))

👤 先着5名(13歳以上) 🆓 無料

※イベント期間中は開催しない場合がございます。
※予約は受け付けておりません。



奉神門 (ほうしんもん)

「御庭(うな)」へ続く最後の門。3つの入り口があり、中央の門は国王や身分の高い人だけが通れる門でした。開門を告げる朝の儀式「御開門式(うけ-じょー)」を見ることが出来ます。

御開門式 (うけ-じょー)

開門を告げる朝の儀式

🕒 毎日8:25～8:45

※休場日および荒天時は中止します。



京の内 (きょうのうち)

城内最大の祭祀空間。神聖な御嶽が数多くあり、「聞得大君(きこえおおきみ)」などの神女(ノロ)により国家繁栄、航海安全、五穀豊穰(ごこくほうじょう)が祈られました。



夕景もオススメです。



西のアザナ(展望台)

城郭の西側に作られた展望台で、ここからは那覇港の様子を望むことが出来ました。首里城内をはじめ、那覇市街地や慶良間諸島が一望できます。



木曳門 (こびきもん)

王国時代、首里城の建物の建設や修理、石積修復工事の資材搬入時に使用され、普段は石を詰めて閉じられていました。

しゅりじょうせい でん

首里城正殿

琉球王国文化の交差点



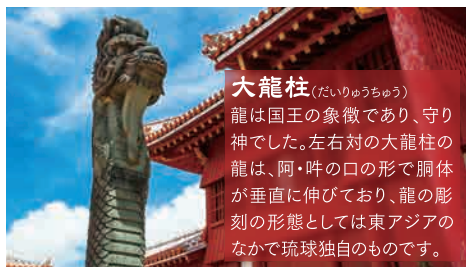
正殿 (せい でん)

正殿は琉球王国最大の木造建造物で国殿または百浦添御殿(ももらそえどうん)とよばれ、文字通り全国百の浦々を支配する象徴として最も重要な建物でした。また日本と中国の様式を取り入れた和漢折衷に、琉球独自の様式が見られる特徴的な建物です。

御庭、浮道 (うな、うきみち)

「御庭」は、年間を通じて様々な儀式が行われた広場であり、この色遣いの列は、儀式の際に諸官が位の順に立ち並ぶ目印の役割をもっていました。また中央の「浮道」は国王など限られた人だけが通ることを許されました。

独自の様式美と交流の証



大龍柱 (だいいりゆうちゅう)
龍は国王の象徴であり、守り神でした。左右対の大龍柱の龍は、阿・吽の口の形で胴体が垂直に伸びており、龍の彫刻の形態としては東アジアのなかで琉球独自のものです。



唐破風妻飾 (からはふつまがざり)

弓のようにそり曲がった曲線状の装飾で、その妻壁の中央に火焰宝珠(かえんほうじゅ)、周囲を大囊股(だいかえるまた)、両脇に金龍と瑞雲の彫刻が施されています。唐破風は日本の神社建築にも見られます。



向拝柱 (こうはいばしら)

瑞雲とともに金龍が柱を巻きながら昇る姿が鮮やかに描かれています。彩色は色調・文様など中国の影響を大きく受けています。

正殿内

二階

大庫理 (うふぐい) 二階は大庫理と呼ばれ、日常的には王妃や身分の高い女官たちが使用した空間です。



御差床 (うさすか)

国王の玉座として様々な儀式や祝宴が行われたところです。お寺によく見かける仏像を置く台(須弥壇(しゆみだん))によく似ています。天井も高くしており格式をつけています。御差床の正面には御庭に面した小部屋があり、正月の儀式の時など、国王が御轎椅(うちゆい)(椅子)に座り御庭に並ぶ諸官の謁見を受けました。

※国王の椅子については、1477年～1526年まで在位した尚真王の御後絵(肖像画)をもとに再現したものです。

一階

下庫理 (しちやくい) 一階は下庫理と呼ばれ、主に国王自ら政治や儀式を執り行う場でした。



御差床 (うさすか)

中央の華麗な部分が「御差床」と呼ばれ、政治や儀式の際に国王が出御する玉座です。左右には、国王の子や孫が着座した「平御差床(ひらうさすか)」があります。

世界遺産 遺構 (いこう)

17世紀以前に建てられた遺構は、2000年12月に琉球王国のグスク及び関連遺産群として世界遺産に登録されました。正殿一階から、歴史ある遺構を見ることができます。



なん てん ばん どころ 南殿・番所

首里城の和の世界



南殿

番所

番所(ばんどころ)

通常は首里城へ登城してきた人々の取次を行った所です。

南殿(なんてん)

日本風の儀式が行われた所でした。いずれも塗装を施したという記録がなく、また元々日本的な建築であるため着色はしていません。

ガイドツアー

ガイドを通して、首里城と琉球王国の歴史を知ることによって沖縄の魅力を再発見できます。

※詳細はHPをご確認ください。
※ガイドツアーは日本語のみとなります。

王国時代の手仕事の美に出会える

特別展示室



南殿(なんてん)

薩摩の使者の接待や首里城の年中行事などが行われる場所でした。現在は、王国時代の書跡、絵画、染織、漆器などの美術工芸品をご覧いただけます。

琉球王国時代の美術工芸品をご覧ください。

※展示は随時入れ替わります。



ちんきん ほうおう
沈金で鳳凰を
描いた丸櫃

製作年：15～16世紀
琉球国王は、国の祭祀を司る神女(ノロ)を各地に配しました。丸櫃は神女が使用する装身具類を納めるための容器で、王府から賜りました。



らでん りゅう
螺鈿で龍を
描いた大盆

製作年：18世紀
大盤の漆器は、主に中国への進貢品として製作されました。図柄となっている五爪の龍は、中国皇帝の象徴です。



鶴や草花を
描いた紅型衣装

製作年：19世紀末
紅型は、王朝の上流階級の女性や元服前の男子の衣装、または踊衣装として用いられました。

しょ いん さす の ま 書院・鎖之間と庭園

国王の執務室、王子の控所



鎖之間

書院

鎖之間(さすま)

王子などの控所であり、また諸役の人たちを招き懇談する施設でした。

書院(しょいん)

国王が日常の執務を行った建物であり、取次役や近習など側近の者がその周辺に控えていました。また、中国皇帝の使者(冊封使)や那覇駐在の薩摩役人を招き、ここで接待を行うこともありました。

名勝



庭園

書院・鎖之間と一体となす重要なもので、城内随一の庭園です。書院に招かれた冊封使たちはこの庭園の魅力を讃える歌を詠みました。

琉球王国時代の伝統菓子を味わう

現在、鎖之間では、琉球王国時代の伝統菓子とお茶を味わうことができる体験サービスを行っています。国の名勝に指定された見事な琉球庭園を眺めながら往時の雰囲気をお楽しみいただけます。

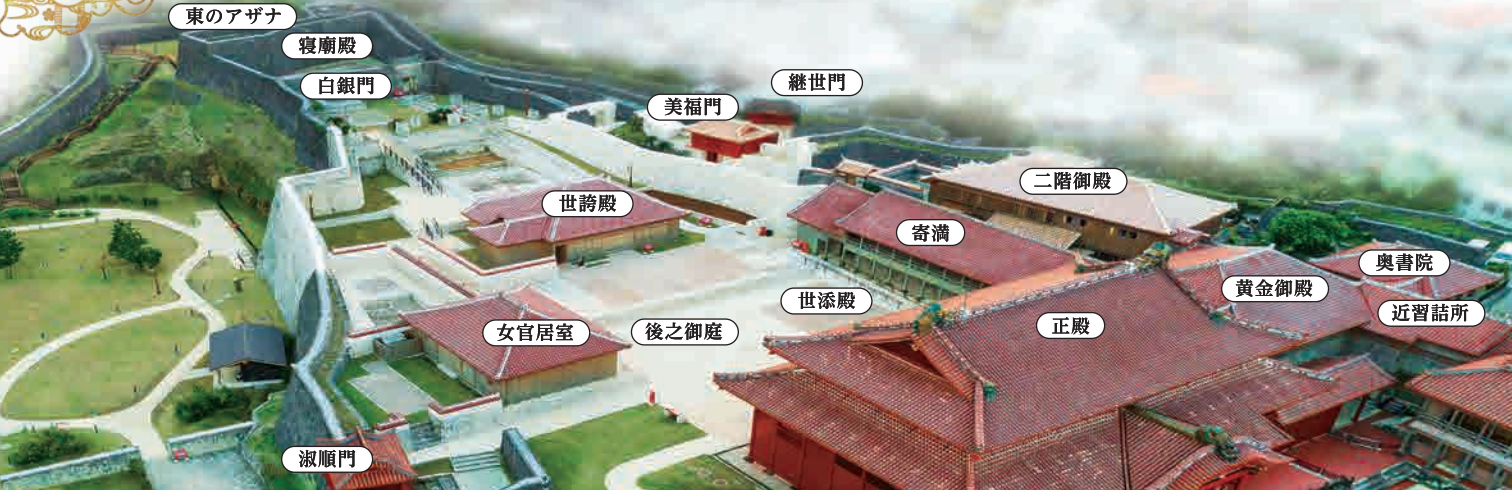
🕒 9:30～18:00(ラストオーダー:17:30)

👤 有料 📍 鎖之間 入口

※電話による予約は受け付けておりません。



おうちばら 御内原



東のアザナ

寝廟殿

白銀門

美福門

継世門

世誇殿

寄満

二階御殿

奥書院

黄金御殿

近習詰所

女官居室

後之御庭

世添殿

正殿

淑順門

近習詰所(きんじゅうつめしよ)

国王への取次ぎを行う近習(きんじゅう)が控えていた場所で、南殿(なんでん)、黄金御殿、奥書院を結びつける建物でした。

奥書院(おくしょいん)

奥書院は、隠れ家的な建築空間であり、奥書院庭園と一体となって休憩場所として貴重な場所であったことが想定されます。

女官居室(にょくわんきょしつ)

御内原で勤める女官たちの居室。

世添殿(よそえでん)

御内原を管轄する建物で王夫人の住居でもありました。

二階御殿(にけうごでん)

国王が日常を過ごした居室で、廊下を通じて「正殿」までつながっていました。

継世門(けいせいもん)

普段は通用門でしたが、国王が亡くなると、城外に住む世継ぎの王子がこの門から城内に入り王位を継ぎました。

寄満(ゆいんち)

国王とその家族の食事を準備していた場所です。

寝廟殿(しんびょうでん)

国王が亡くなった際、その亡きがらを一時、安置した場所。

白銀門(はくぎんもん)

「寝廟殿」に通じる正門で、国王だけが出入りすることが出来ました。別名「しろがね御門」。

美福門(びふくもん)

「御内原」への入口のひとつで「継世門」が立つまでは、ここが城の東門でした。

淑順門(しゅくじゆんもん)

「御内原」への表門で、別名「みもの御門」「うなか御門」ともいい、門の造りは櫓門形式・入母屋造・本瓦葺となっています。

国王の生活空間で美にふれる

黄金御殿

(くがにうどうん)

国王や王妃・王母のプライベートゾーンで、居間や寝室がありました。現在は、王国時代の美術工芸品をご覧ください。



特別展示室



世誇殿

国王が亡くなると、次期国王の即位の礼が行われた場所。普段は、未婚の王女の居室として使用されていました。



伝統芸能公演

華やかな琉球舞踊などを観覧することができます。

※詳細はHPをご確認ください。



首里城の「奥」の世界

国王やその家族の生活空間であり、国王およびその家族以外は男子禁制でした。ここは王妃を頂点に、女性がすべてを取り仕切る「奥」の世界でした。



あがり

東のアザナ

城の東側に築かれた物見台で、首里城一帯や城下が見渡せました。



古写真



現在写真

一般財団法人 沖縄美ら島財団所蔵 森政三等関係資料



政府の中枢機関 冊封使の接待所として



北殿(ほくてん)

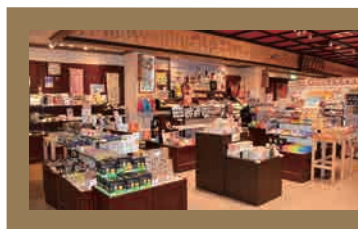
北殿は評定所と呼ばれる重要案件を協議した政府の中枢機関でした。また冊封使を歓待した場所でもありました。



冊封使(さっぽうし)

[冊封使行列図] [沖縄県立博物館・美術館所蔵]

新国王が誕生すると、中国から冊封使と呼ばれる皇帝の使節が来琉し、その就任を認める儀式が執り行われました。



ミュージアムショップ 球陽

首里城オリジナル商品やお土産を販売しております。



右掖門(うえきもん)

歓会門、久慶門から淑順門へ直接通じる門で、往時は淑順門から御内原へ入りました。別名「寄内御門(よすふいちうじょう)」ともいい、創建は15世紀頃と伝えられています。

久慶門(きゅうけいもん)

首里城外郭の北側に位置し、かつては通用門として主に女性が使用しました。石造拱門で上部に木造瓦葺の櫓があります。



首里城の歴史

首里城は十四世紀頃に創建されたといわれ中国や日本の文化も混合する琉球独特の城。沖縄戦で焼失しましたが、1992年11月3日に正殿をはじめ一部が復元されました。

中国	日本	(琉球)	三山時代	第一尚氏	第二尚氏	江戸時代	清	明治	大正	沖縄県	昭和	アメリカ統治時代	沖縄県	中華人民共和国	平成
	南北朝		1372 中山王察度、初めて明に使者を送る 1406 尚思紹(尚巴志の父)中山王になる 1427 龍潭を掘り、庭園を整備した 1429 尚巴志、三山を統一。琉球王国が成立												
	室町時代			1453 「志魯・布里の乱」が起こり首里城全焼 1458 万国津梁の鐘を正殿に掛ける											
	明	戦国時代		1470 尚円、王位につく。瑞泉門を創建											
				1477~1526 この頃歓会門、久慶門を創建する 1494 円覚寺を創建 1501 玉陵築造 1502 円鑑池、弁財天堂創建 1508 正殿に青石の石「高欄、大龍柱」設置。この頃北殿創建 1519 園比屋武御嶽石門を創建											
				1527~55 この頃龍樋、首里門(守礼門)を創建											
				1546 首里城東南の城壁を二重にし、継世門を築く											
				1609 島津の琉球侵入											
				1621~27 この頃南殿、創建 1660 首里城焼失 1672 首里城再建											
				1682 龍頭棟飾を焼き正殿、屋根に置く											
				1709 首里城焼失 1712 首里城再建、1715年に完了する 1729 正殿の玉座を中央に移し、「唐波豊」と改名 1753 寝廟殿、世添御殿を創建											
				1768 正殿の大修理が行われる 1799 識名園が造営される											
				1853 ペリー提督来琉。首里城訪問											
				1872 琉球藩設置 1879 首里城明け渡し。琉球王国の崩壊 沖縄県誕生											
				1925 首里城正殿、国宝に指定される 1928 国宝に指定された首里城正殿の昭和の大改修始まる											
				1933 歓会門、瑞泉門、白銀門 守礼門、国宝に指定される 1945 沖縄戦により首里城焼失 1957 園比屋武御嶽石門を復元 1958 守礼門復元 1968 円覚寺総門、弁財天堂復元 1972 日本本土復帰 1974 歓会門、復元竣工 1977 玉陵、復元竣工 1984 久慶門、復元竣工 1989 首里城正殿、復元工事に着手 南殿・番所、北殿、奉神門等の復元工事も着手される											
				1992 首里城公園一部開園 2000 北殿にて「九州・沖縄サミット」社交夕食会開催。首里城跡、園比屋武御嶽石門、玉陵が世界遺産へ登録される											
				2003 京の内 一般公開 2007 書院・鎖之間 一般公開 2008 書院・鎖之間庭園 一般公開 2009 書院・鎖之間庭園、国の名勝に指定される 2010 淑順門 一般公開 2014 黄金御殿・寄満・近習詰所、奥書院 一般公開 2019 御内原エリア等 一般公開											